



企業経営に役立つ!
ASP/SaaS徹底活用術

Webコミュニケーション

ブラウザだけで、いつでも、誰でも、簡単に使える無料の画像共有システム「AB会議」。そしてウェブ会議システム「アエルオフィス」。わかりやすさ・使いやすさにこだわって開発されたこれらのサービスは経費削減の切り札だ。出張費の削減、時間の有効利用、そして環境にも優しい。魅力的な新世代のコミュニケーションツール「アエルオフィス」を紹介しよう。

インタロボット株式会社
「アエルオフィス」

電話では難しい打ち合わせを可能にする「アエルオフィス」

どうやって会って話をするような感覚でコミュニケーションできるのか

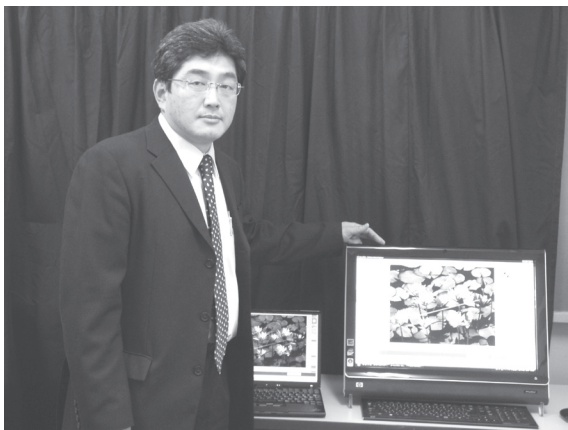
人の話す声に反応して、生き生きと動くロボットやCGキャラクターを生み出すインタロボット株式会社（以下、インタロボット）は、大学の研究成果を実用化する大学発ベンチャーとして二〇〇〇年に誕生した。

イベント会場でかわいらしい表情をディスプレイに映し出してティッシュを配るロボットや、テレビ番組でまるで自分が話しているように細かく動くCGキャラクターを見たことがある人も多いだろう。また、セガトイズから発売されている、声に反応して揺れたり領いたりする植物「ペコッぱ」も知られている。これらは、音声から生き生きとした身体動作を生成する特許技術「iRT」が組み込まれている製品だ。

インタロボットでは「人のコミュニケーション」についての研究成果を商品化することに取り組んでおり、その成果の一端が先に挙げたような製品群だ。「人と人の対面コミュ

ニケーションはなぜうまくいくのかということを研究し、実際に会っていなくても会っているような感覚でコミュニケーションできる技術の研究をしています」とインタロボット代表取締役で工学博士の小川浩基氏は語る。

そして、この研究成果をビジネス向けのサービスとして展開しているのが「AERU」だ。ブラウザのみで利用できるコミュニケーションシステム「AERU」は、自社運営のASPサービスとともに、蓄積されたノウハウやモジュール、インフラを活かしての受託開発も請け負っている。多彩なシリーズ中、最初に作られたのは「アエルバナー」だ。これは、自社サイト上に設置したバナーを閲覧者がクリックすると、オペレーターとビデオチャットできるという仕組みだ。これを使えばオンラインショッピングを、まるで実店舗で店員と話しながら買い物をしているように



インタロボット 代表取締役 小川浩基氏

「一つの画面にさまざまな機能を盛り込むと見づらく、使いづらいものになります。私はこの画面を現実空間から相手に向かって連続する場だと考えて設計しました。一番下の、ユーザー名だけ入力できるバーが自分の机の延長です。その上のバーは共有部で、その上部が相手につながる空間です。またホワイトボード共有時の操作ボタンは、よく使う動的なボタンは右下方向に、削除のような注意が必要なボタンは左上方向に小さめに配置しました」と小川氏は画面設計時の構想を語る。



どこからでも会議に参加できるAERUオフィス

行うことが可能になる。

「AERUが、こういったシーンでどのように使われると喜ばれるのかを突き詰めています。シリーズの中で最後に開発されたのがアエルオフィスです」と小川氏は語る。「アエルオフィス」はブラウザのみで利用できるウェブ会議システムだが、小川氏はAERUシリーズの一つの完成形だとサービスに対する自信を見せる。

使いやすさ・わかりやすさを追求したウェブ会議「アエルオフィス」

「アエルオフィス」は、最大で五拠点を接続し、テキストチャットやビデオチャットでコミュニケーションを可能にするウェブ会議システムだ。ホワイトボードを共有して文字や絵を簡単にやりとりできるのはもちろん、画像やオフィスドキュメント、PDFといった資料を表示して共有することもできる。Flash Playerの動作するブラウザがあれば利用できるため、WindowsやMacだけでなくLinux搭載のPCでも利用可能だ。

実際に使ってみると、動きが非常にスムーズであること、画面構成がシンプルなこと、驚かされる。ウェブカメラ等が接続されている場合、標準ではビデオチャット画面が表示されているが、テキストチャットをしたい時には「チャット」ボタンを、画像や資料をホ

人が普通に使えることが大事です」と繰り返し語る小川氏の言う「普通の人」というのは、パソコンに詳しくない人を指す。開発者はもちろん、ビジネスの第一線にいると忘れてしまいがちかもしれないが、世の中にはパソコンを自由自在に使えない人はまだまだたくさんいる。そうした、コンピュータリテラシーの高くない層が、無理なく自然に使えることをインタロボットは重視しているのだ。

たとえば「AERU」を用いた無料のサービス「AB会議」は、会員登録等の事前準備不要で利用できる。用意されたAとBという二つのボタンのうち、Aをクリックしたユーザーが取得したIDを電話などで相手に伝え、その相手はBをクリックしてIDを入力するだけで、二人のユーザーがホワイトボードを共有し、



サイトに行くだけで準備なしに利用できるAB会議

誰でもすぐに使える「AB会議」を無料提供

ホワイトボード用のボタンはほとんど日本語で操作内容が表示されており、ペンの選択もビジネスでよく使われるだろうものに絞り込んである。パソコンに詳しくない人でも直感的に使えるような構成だが、詳しい人ならばペンの色や太さを自由に変更して使う方法も用意されている。誰でも簡単に使えるシンプルなインタフェースと、細かい設定をしたくないユーザーの要望を両立させたかたちだ。

また、ビデオチャットはさらに感覚的にわかりやすい。「パソコンごしに話していると、本当に相手に聞こえているのか不安になります。だから、わかりやすい大きなカラーバーを表示しました。相手が話している時にはそれがわかるように、相手画像の周囲がオレンジ色に光ります。そして、ビデオチャット中のこちらの映像はどこが映っているかがわかれば十分だという判断で、小さな映像を表示するにとどめました」と小川氏。自分の声が届いているのか、誰が話しているのかが目で確認できることで、安心して話せるようになっている。

小川氏がサービスを構築する時に重視するのが、手軽に使えることだという。「普通の

テキストチャットや画像のアップが利用できるようになる。

「A B会議は、何時からネット会議をしましょう、という使い方ではなく、電話で話している時の補助として使っていただけだと考えています。電話をしていても言葉だけではなかなか伝わらない、わかりづらいということがありますね。そんな時に、はじめての方とでも、このページにアクセスしてBボタンを押して、と言えば、簡単に手描きや写真やWEBカメラのスナップショットを共有して話を進めることができます。B側のユーザーは画面を見るだけでもかまいません。ブラウザを起動してアルファベットやIDが入力できれば、誰でも使えます」と小川氏はA B会議の手軽さを強調した。

非常に簡単に使える「A B会議」だが、インタフェースや基本的な機能は「アエルオフィ



使用中のPCや低価格PCですぐに利用できる

ス」と共通だ。一対一での利用に限定されているとはいえ、高機能なサービスが無料で提供されるには二つの理由がある。「多くの人にAERUを体験してもらうことで、遠隔コミュニケーションの可能性に関心が高まり、弊社のビジネスにつながると思っています。また、A B会議を使っていたことが、インタフェースが共通であるアエルオフィスにステップアップするための入り口になるとも考えています」と小川氏は語る。「弊社はテレビCMを流したり、大々的に広告を出したりする戦略は取りません。使っていただいた上でのクチコミや、さまざまなメディアで取り上げられての自然な広がりを目指しています」(小川氏)

経費削減・生産性の向上・環境保護に活躍するウェブコミュニケーション

小川氏は、今後ますますウェブコミュニケーションに注目が集まるだろうと予測している。「日本の一人あたりのGDPは先進七カ国で最下位です。もっと生産性を上げなければいけない状況で、コストをかけずに生産性を上げることのできるウェブコミュニケーションシステムは切り札なのです。これから急激に普及すると感じています」と小川氏。不況下ではコスト削減が最も注目される点だが、会議のために移動しなくて良いという

て行われる予定だ。「一〇年後には、今から比べると相当高機能化していると思います。しかし、それは世の中のユーザーのレベルが上がっているからです。今の若者達は学校でパソコンを習い、当たり前のように使いこなします。アエルオフィスが想定ユーザーとするのは、その時代の平均的なユーザーです。これから始めたい人や手軽に使いたい人のためのやさしいツールであり続けたいと思っています。」と小川氏。

「人と人をよりよく繋ぐ、人を活かす」ことをモットーとするインタロボットからは、これからも魅力的なサービスが提供されそうだ。

会社名	インタロボット株式会社
住所	東京都大田区蒲田2-10-1-203
TEL/FAX	TEL : 03-6804-2030 / FAX : 050-3588-6210
E - M a i l	info@i-robot.co.jp
U R L	http://www.i-robot.co.jp/
創業	2000年3月9日
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> • AERU : WEB コミュニケーションシステム • iRT : うなずき理論で有名な特許技術 • 受託開発 (AERU 関連、iRT 関連、ロボットほか) • その他自社開発の製品・ソフトウェア

ことは、環境的にも喜ばしいことだ。「人間は難しい話はメールや電話ではなく、顔を合わせないとうまくできません。しかしそのために移動を繰り返すのは非効率的です。実際に会わなくても、ウェブを通して会ったのと同じようにコミュニケーションできる時代がやって来ます。ウェブ会議に興味を持っている方は、ぜひ無料のA B会議から始めてみてください。目からうろこが落ちると思います」と小川氏は語る。

インタロボットでは「アエルオフィス」は今後も使いやすさ・わかりやすさを重視して開発し、使用頻度の低い機能を増やすことはあまり考えていないという。これは、多機能化することで使いづらくなることを敬遠しているからだ。「ウェブ会議で求められている機能はすでに一通り揃えています。多機能化に関しては、たとえば、相手のPCを遠隔操作するような機能はコンセプトが違うので追加予定がありません。そういう機能が欲しい方は、他社のシステムを併用されたら良いと思っています」と小川氏。しかし、ユーザーの要望を切り捨てているわけではない。「公開しているサービスを見た方から、インタロボットの技術でこういう物を作ってもらえないか、と言った話をいただくのは大歓迎です。これまで作ったロボット等もそうして作り直しました。AERUを使ったビジネスに興味を持たれた方はぜひお問い合わせください」と語る小川氏は自信に満ちた笑みを浮かべる。

今後「アエルオフィス」の機能追加は、世の中のコンピュータリテラシーの向上に伴っ

